

教育

学生感覚で銀行のテレビCMを制作 名古屋デザイン&テクノロジー専門学校



吹き抜けの実験室には高さのある設備が設置された



撮影した映像を編集する学生たち

滋慶学園グループ（本部・大阪市）の名古屋デザイン&テクノロジー専門学校の学生が、三十三銀行（三重県四日市市）のテレビCMを制作した。15秒の本の短編、顧客に寄り添う銀行の姿勢を求めている。企画から脚本、キャラクター、監督、映像編集までの作業すべてが学生が行い、銀行側のエキスパートナレーション、BGM制作は、姉妹校の名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校に依頼。CMは名古屋テレビ三三重テレビで放送された。

三十三銀行発足2周年記念で制作

2017年に第一銀行と三重銀行が合併し三十三銀行が発足。CMは今年5月27周年を迎えた記念として制作された。家族編は住宅ローンや子供の教育資金、相続などに心安を抱える夫婦が来店し、銀行員の丁寧な説明を受け安心するというストーリー。事業者編は中小企業の幹部と銀行が、資金調達やIT・DX化の推進などの経路

音楽・ナレーション、銀行員役も学生、2編はいずれもロケーション撮影した店内の全景から入り、悩んだ顧客の表情が映し出され、銀行員が胸を張って自信を持って話をする。実際の業務と同様にタレント

とて説明した後、納得しようやく表情が緩みが出てきた。銀行員のアップの笑顔で終わる。おなじみの情景を二倍近く取り戻す未来へはたくましく歩んでいこう。などのナレーションは、名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校に依頼した。



家族編のCMの1シーン（三十三銀行提供）



三十三銀行本店で行われた撮影

ダイセル、金沢大施設に資金提供

共創型の研究開発拠点として稼働

化学品メーカー、ダイセル（大府市）が30億円の資金提供となる産学連携で金沢大学角間キャンパス（金沢市）に設置した「金沢大学バイオマスケリイノベーションセンター」が、4月から本格的に稼働を開始した。同センターは、バイオマス（植物由来資源）に由来する石油（化石燃料）の代替や資源循環型の施設など、持続可能な循環型

社会を実現するための研究開発拠点となる。産学官の連携を促し、新たな価値を生み出す。新しい価値の創造や研究開発のスピードアップを図る。同センターは、金沢大学が掲げる「未来知」による社会貢献や新たな産学連携の象徴的存在として、説明「ダイセルでは、新バイオ

三十三銀行営業企画部ツタルリチール企画課長の福田賢治さんは「われわれがCMを作る上で使いたいイメージで、新しい若し感性を活かしたCM制作をお願した」と話。地方銀行は顧客訪問して、密にコミュニケーションを図ることが重要だが、口頭で依頼される

顧客に寄り添い 共に歩む姿勢アピール

「2周年の節目に迎える、改めてフェイス・トゥ・フェイスの営業が必要だと考えている。オンライン化が進む便利になることも、大切な顧客にも寄り添う」と話している。共に歩む姿勢は、このことをアピールしたい」と話している。

「おなじみの情景を二倍近く取り戻す未来へはたくましく歩んでいこう。などのナレーションは、名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校に依頼した。

8シーンに分け納め、これまで撮影したプロフェクトは、名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校に依頼した。同校の卒業生が出演した。BGMも同校の卒業生が作曲した。仕事上の銀行員役は俳優名を名乗る学生、家族編の8家族は事業者編の銀行員の顔、同校の卒業生が出演した。同校の卒業生が出演した。同校の卒業生が出演した。

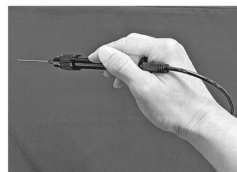
マニアックな「トリ」として新たな機能性材料の開発を進めており、小池雅也社長は「多様な価値を生み出す。セルロースを基にしたバイオマスプラスチックの研究を加速させ、環境社会の実現化にまいりませ」と話している。同センターは、17階を創設フロアとし、企業や大学が自由に実験や研究、交流を促すエリアとしてホールを設けるなど、設置、4〜5階の半分をダイセルが使用し、半分のレンタルスペースとして、半分のレンタル

極細の硬性内視鏡を共同で開発

慶應大/エア・ウォーター

負担を少なくしながら関節内部を観察

慶應義塾大学の小池康博教授と医学部整形外科学教室の中村雅也教授、エア・ウォーター（大阪市）先端に設置したGI型POFレンズは、0.1〜0.5%の細さで、患者への身体的負担を少なくしながら関節内部を観察することができる。硬性内視鏡は、体内への挿入部分が硬く、曲がらない内視鏡。主に外科手術に使用される。今回開発した極細硬性内視鏡は、GI型POF



注射針レベルの極細硬性内視鏡

にした。さらに極細硬性内視鏡は局所麻酔で済むため、外来や在宅での検査や治療も可能となる。医療現場や患者の肉体的な負担の軽減が期待できるとしている。

大阪電気通信大学

産学連携プロジェクトで子供用キーボードが誕生

大阪電気通信大学は、エレコムの産学連携プロジェクトとして供のパソコン学習用にはじめてキーボード「KEYBOARD ALLETO キーボード」を開発した。小池から大学の情報科学教育が専門の兼進副学長をはじめとする監修チームが、初めてキーボードに携わり子供が楽しく学べるように、さまざまな工夫を凝らした。

子供の手の大きさに合わせて、17のキーは手のコバクパクトに設計、アルファベットに不慣れな子供への誤脱防止のため実際に入力された文字をLEDで表示し、子供が安心してキーボードを操作できるように設計された。キーボードの形状にも変化を付けた。キーボードのキーの配置にも変化を付けた。キーボードのキーの配置にも変化を付けた。キーボードのキーの配置にも変化を付けた。